京都大学人文科学研究所共同研究 最終報告書

１．研究課題

近現代中国の制度とモデル

Institutions and models of modern China

２．研究代表者氏名

村上　衛

MURAKAMI, Ei

３．研究期間

2023 年 4 月-2024 年 3 月

４．研究目的

本研究班は「近現代中国における社会経済制度の再編（2012～2015 年度）」班、「転換期中国における社会経済制度」（2016 年～2018 年度）班を引き継ぐかたちで、中国近現代史研究の立場から制度史研究をさらに進展させていくものである。

本研究班では長期の歴史の中で生成し、社会・経済を規定してきた慣習・常識・規範・秩序・行動パターンといったものを「制度」とみなす。本研究班では、実証研究をベースにしつつ、中国近現代の社会・経済変動と中国人・外国人の接触にともなう摩擦のなかで浮かび上がる社会・経済制度をとらえ、そのモデル化を行う。そのモデルを、日本・インド・ヨーロッパなどの他地域のモデルと比較し、中国の制度の特性あるいは他地域との共通性を明らかにする。この作業を通じて、中国近現代史の立場から日本における比較制度史研究を進展させ、研究成果を国内外に発信していくことが本研究班の目的である。

This research project on institutional history follows on from two earlier projects: Reorganization of Social and Economic Institutions in Modern China (2012-2015) and Social and Economic Institutions in China during the Period of Transition (2015-2019). In this research, we regard customs, common sense, rules, orders, and behavioral patterns as “institutions.” Based on empirical studies, this project explores the institutions which emerged during the modern period as a result of social and economic changes and friction between Chinese and foreigners. Using these empirical studies, these institutions are modeled and compared to models from Japan, India, Europe, and other places. The purpose of this comparison is to highlight both what is unique about Chinese institutions and what they have in common with other areas. From the perspective of modern Chinese history, this project aims to advance comparative historical studies of institutions and to disseminate the project results.

５．研究成果の概要

4 年間に 67 回の研究会を開催し、のべ 2,489 人の参加を得た。報告の 2 週間前にレジュメを配布し、専門に合わせてコメンテイターをつけるという方式をとった。2020 年春の新型コロナウィルスの感染拡大という事態に際して、5 月よりオンラインでの開催を開始し、2020 年度後半からは可能な限りハイフレックスでの開催を実施した。以後、現在にいたるまで、基本的にハイフレックスでの開催を続けてきた。オンラインを利用したことによって海外からの参加も可能になると同時に、国内においても幅広い参加者を集めることができ、参加者数も平均 35 人程度に増加した。報告のテーマは多岐にわたったが、多様なメンバーに参加いただくことで、様々な方面からのコメントを得、議論を深めることができた。
このほか、研究班と関連して現代中国研究センター主催で合評会を 8 回、講演会を 3 回、ラウンドテーブルを 1 回開催し、班員の研究成果への理解を深めるとともに、研究の視野を広げることができた。また成果の一部は 2022 年 9 月の人文研アカデミーで公開した。

６．共同研究会に関連した主な公表実績

合評会　岩井茂樹『朝貢・海禁・互市――近世東アジアの貿易と秩序』(2020 年 8 月 22 日)、合評会　狭間直樹『近代東アジア文明圏の啓蒙家たち』(2021 年 9 月 7 日)、合評会　石川禎浩『中国共産党、その百年』・高橋伸夫『中国共産党の歴史』(2021 年 11 月 6 日)、合評会　小野寺史郎『戦後日本の中国観』(2022 年 3 月 19 日)、合評会　岡本隆司編『交隣と東アジア――近世から近代へ』(2022 年 3 月 25 日)、人文研アカデミー「近現代中国研究の最前線」(2022 年 9 月 8、 15、 22、29 日の全 4 回)、楊瑞松氏学術講演会（2022 年 11 月 11 日)、中共百年史（石川禎浩『中国共産党、その百年』・高橋伸夫『中国共産党の歴史』）書評会（2023 年 3 月 5 日)、「アカデミズムとジャーナリズムのあいだ――安田峰俊氏と語る」(2023 年 3 月 30 日)、「清末の三巨頭と中国」(岡本隆司著『曾国藩―「英雄」と中国史』・『李鴻章―東アジアの近代』・『袁世凱―現代中国の出発』) 合評会 (2023 年 7 月 29 日)、龍登高氏講演会「近代中国土地権利的分配 検検与解釈―基於土改普査数拠的新発現」(2023 年 10 月 7 日)、香港史に関するラウンドテーブル:Robert Bickers, Vivian Kong（2024 年 2 月 2 日)、馬駿氏講演会「1914 与近代中国政治軌跡」(2024 年 3 月 29 日）

７．研究成果公表計画および今後の展開等

成果報告論文集は 2024 年前半に原稿をとりまとめ、編集作業を経た後、2025 年 2 月に刊行する予定である。また、研究成果の一部は 2024 年 9 月の人文研アカデミーで公開することになっている。